



【2017-05-24】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『田んぼが神秘的になる季節』

長野修二

田んぼが神秘的になる季節

4月から5月にかけて田んぼが神秘的になる季節がやってきます。

9月、10月の稲刈り後、殺伐とした風景になる田んぼですが、1月から3月までの間におこなわれる田起こしで、少し田んぼの景色も華やかなものになってくるようです。

この時期、鳥たちも田起こしで掘り起こされた土の中にいる虫などを狙って、田んぼに沢山訪れるようになります。

昔のようにレンゲが咲いていないのは寂しいかぎりですが、それでも田んぼのまわりには、たくさんの草花が咲き誇り、田んぼに通じる水路の流れを見ているだけで生命の息吹が蘇ってくるようです。





この地では、だいたい4月ごろから田んぼに水がはられ、代掻きが始まります。

代掻きが始まれば、さぎなどの水鳥たちが集まってくるが、中にはカラスもやってきて水に足を突っ込んで食べ物をあさっています。





このときのカラスは集団ではなく、少ない数、ほとんどは一羽、三羽ほどでやってきます。

ハシボソガラスですから田んぼの中を左右に足を動かして歩く姿はなかなかユーモラスです。

さぎは単独であったり、仲間、あるいは家族連れでしょうか。

数羽単位でみることもあります。

代掻きがはじまれば、これまでたんぼの中で餌をとっていた鳥たちは、水がはいってくることで田んぼを追われ、あぜ道やその他の場所に移動していくようです。

代掻きが終わり田んぼに静寂が訪れると、静かな水面が突如現れます。

田んぼがもっとも神秘的な輝きを放つときです。

森閑とした輝きに満ちた一瞬の風景が現れます。





まるですべての風景を飲み込むような神秘的な美しさを見せます。
この風景をみるために毎年田んぼに通うようなものではないでしょうか。
身近な景色を映り込ませる田んぼの包容力と靈妙性によって、日常のなにげない景色が、非日常の感動に変わる瞬間でもあります。

この地では、田植えは5月の連休中に終わりますが、その後、苗が植えられたばかりの田んぼの水面には、しばらくの間、この神秘的な風景が続くことになります。





そのときどきの田んぼの水面の景色によって5月の心地よい風と共に、
新緑の季節が増していく様子を、散歩がてらみていれば心身ともに英気

を養うことができるものです。

田んぼに水がはいることで水の力を得て大地に生命の循環を感じとることができるようになります。

これから植えられた苗が大地と水の力を得てぐんぐん成長してきますが、同時に多くの生きものを育てていきます。

あめんぼう、かえる、どじょう、メダカ、カメ、鳥、へび、ザリガニ、あるいは、田んぼのまわりの雑草や木々など田んぼの生命力によって次の世代を紡ぐことになります。

人はお米を得て次の世代を紡いでいくことになります。

多くの生命の源が身近にあることで、自らの人生を豊かにしてくれているようです。

身近な田んぼの景色を眺めながらの散歩も、またよきひとときでしょうか。